

伝統と革新

NEXT
VISION
JAPAN

GEIBUN

国立大学法人 富山大学
芸術文化学部／大学院 芸術文化学研究科

2021年度版



NEXT
VISION
JAPAN

『伝統と革新』

芸術文化を社会に展開することで、
地域が抱える課題を解決し、
伝統的な文化から革新的な価値を創出する。

芸術は「魅力づくり」の原動力。

「芸術」というと、絵画や彫刻、音楽など
趣味的で、限られた人達が楽しむものだと思われがちです。
しかし、芸術が持つ「美意識」や「新しいアイデア」は、
企業活動から地域づくりまで、社会のあらゆる場面において
それぞれの質を高め、魅力を創り出す原動力になるものです。
日本は戦後、製造業の技術力と経済力を柱に成長してきましたが、
グローバル化の中で、新興国の激しい追い上げを受けている今日、
より高い付加価値のある商品やサービス、
これまでにない新しい価値の創出が求められています。
その担い手となるのが、芸術なのです。

世界に発信すべき地方の文化。

地方の駅前では空き店舗が目立ち、
伝統産業では、後継者不足による衰退が深刻な問題になっています。
産業集積などで東京に大きく後れを取っている地方ですが、
日本のものづくりや文化を支えて来たのは地方です。
今も残る豊かな自然、地縁のコミュニティ、
長年の営みの中で創り上げてきた工芸や祭事、町並みなどには、
世界に誇るべき知恵や技、そして美しさがあります。
質の高い魅力が求められている今日だからこそ、
地方に埋もれている文化を再生していかなければなりません。
伝統的な文化から革新的な価値を創出する。
日本が世界に向けて発信すべきは文化です。

『融合教育』

何かを創りだしていくためには、異なる考えを持った人と交流し、分野を横断して知識や技術を学び、それらを組み替えることが効果的です。芸術文化学部では、多様な素養の学生が集い、共に学び、お互いの考えを理解する中で、創造性が発揮できるよう次のような工夫を行っています。

- 実技検査(鉛筆デッサン)と小論文を選択できる入学試験
- 横断的履修が可能なカリキュラム
- 学生がコースを越えた学修を気軽に相談できるメンター教員制度
- アクティブラーニング(グループ討論等を含む能動的授業)やPBL(問題解決型授業)を取り入れた「地域連携授業」と「プロジェクト授業」
- 学部の全教員を対象に卒業研究・制作の指導教員を決定していく制度

それらを総合して実施しているのが芸術文化学部の『融合教育』です。

垣根の低い4コース制

2018年度からは4コース制となりました。各コースでは、それぞれの専門を身につけるための履修モデルを設けていますが、学生は自分の目標に応じてすべてのコースの授業を履修することができます(一部、教室設備の制約等から履修制限を設けている授業があります)。

五福キャンパスで他学部生と学ぶ教養教育

富山大学では2018年度から教養教育の一元化を実施、芸術文化学部生も1年次は富山市内の五福キャンパスで他学部生と共に学びます(一部は高岡キャンパスで開講)。キャンパス間には、無料のシャトルバスを運行しています。

異なる素養の学生が共に学ぶ環境

芸術系の大学はデッサンなどの実技ができなければ入学できないと思われていますが、芸術文化学部では、小論文でも受験できます。「デッサンは描いたことがないけどクリエイティブな仕事がしてみたい」という属性の学生と一緒に学ぶことで、多様性のある学修環境がつくられています。

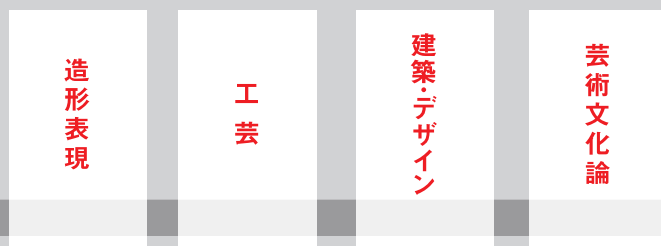
コース配属について

2年次において本人の志望や学業成績等に基づいてコースを決定し、後学期にコース配属されます。各コース配属の目安は以下の通りです。

美術・工芸コース ————— 30名
デザインコース ————— 30名
建築デザインコース ———— 30名
地域キュレーションコース—20名

『融合教育』は
総合的な教育体制

さらに高度な専門性の修得を目指す学生は
大学院 芸術文化科学研究科へ



● さらに高度な専門へ

専門教育は高岡キャンパスで受講



● 多様な選択肢

● 地域連携授業

● プロジェクト授業

● 横断的履修

● メンター教員制度

● 芸術基礎

○ 2年次において本人の志望や学業成績等に基づいてコースを決定します。

1年次の教養教育は五福キャンパスで受講 (一部は高岡キャンパスで開講)



● 他学部生との交流

入学試験では、実技検査 (鉛筆デッサン) と小論文から選択

特別入試の面接、一般入試の大学入試センター試験は共通

実技検査 (鉛筆デッサン)

小論文

● 異なる素養の学生

○ 入試についてはP.10-11をご覧ください

富山をキャンパスに地域と連携した

『実践教育』

芸術文化学部がある富山県には3千メートル級の山々が連なる雄大な立山連峰や、ユネスコの世界文化遺産に認定された五箇山合掌造り集落、無形文化遺産に認定された3件の「山・鉾・屋台行事」があります。また高岡市には、江戸時代以来の鋳物や漆器等の伝統産業や、国宝瑞龍寺、重要伝統的建造物群保存地区に選定された2箇所の古い町並みなどの文化資源があります。これらの恵まれた環境を活かし、地域をキャンパスとした「実践教育」を行っています。芸術文化学部の前身である高岡短期大学時代に全国の大学に先駆けて取り組みを開始し、20年余り継続する中で、行政や企業、自治体などと組織的な連携体制を確立しています。実践教育は、教科書から学ぶことが難しい経験的知識や技術を身につける上で効果的であると共に、目標を達成する責任感や、自ら考えて行動していく主体性を養うことができます。

「地域連携授業」と 「プロジェクト授業」

地域の現実的な課題をテーマとし、近隣の作家、職人、デザイナー等から指導を受ける授業や、関係者と協力して進める授業を「地域連携授業」としています。また、特定の課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法を実践的に学ぶ授業を「プロジェクト授業」として、共に実践的な学修機会として取り組んでいます。

学生の作品発表拠点 「芸文ギャラリー*」

高岡市中心市街地に設置している「芸文ギャラリー」は、授業成果や学生の自主制作の発表の場です。例えば、博物館実習の授業では、ギャラリーの企画展を実施する中で、関連の知識や技術を学びます。また、学生サークルによる「雑貨屋Tommy Dining」では、ものづくりからパッケージデザイン、値付けや商品管理、接客まですべてを学生が協力しながら進めています。

公立美術館の企画展として開催 している卒業・修了研究制作展

芸術文化学部及び大学院 芸術文化学研究科の卒業・修了研究制作展は、地域の関係者と実行委員会を組織して、高岡市美術館の企画展として開催しています。卒業生・修了生は、企画展としての責務を果たすべく、作品の展示方法にも力を注いでいます。在学生も広報やイベント活動を分担して創り上げています。

もっと!!

芸文WEB「地域連携教育」



芸術文化学部では誌面で紹介している他、数多くの実践教育を行っています。ぜひWebでご確認ください。

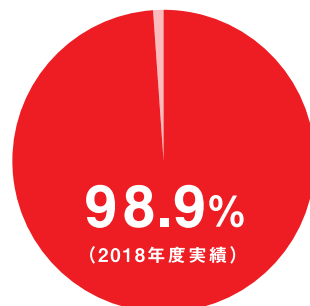
地域と共に生きる。

富山大学芸術文化学部

GEIBUN

これまでと、これからの芸文の活動を
タグラインとして設定しました。

芸文の就職率



「融合教育」と「実践教育」によって
毎年90%を超える就職率を誇ります。

プロジェクト授業：ミラレ金屋町

高岡市の金屋町を舞台にして、町屋の魅力を発信、金屋町の住民と交流できるイベントが「ミラレ金屋町」です。



芸文ギャラリー*

授業成果や学生の自主制作の展示を行っています。

学生サークルの人気企画展「雑貨屋 Tommy Dining」(写真左)・「富山県を示すグラフィック」をテーマにした「デコのグラフィック展」(写真右上)・クラフトデザインの授業成果発表「Gift(ギフト)」展(写真右下)



卒業・修了研究制作展

芸術文化学部創設時から高岡市美術館の企画展として開催しています。



GEIBUN Selection 卒業・修了研究制作展に出品された作品及び論文の中から優れたものに与えられます。
受賞作品を中心として、富山県美術館 TAD ギャラリーや、芸文ギャラリーなどで展覧会を行っています。



GEIBUN オープンエアミュージアム in 環水公園

芸術文化学部では教員や学生、卒業生の作品を、富山市の富岩運河環水公園に展示するイベントを毎年開催しています。



とやまの木の公園 富山県産材を使用した木製遊具を公園のように設置して遊ぶイベントに、芸文生が授業で制作した木のおもちゃを展示。芸術文化学部の「木の遊具開発プロジェクト」がデザインし、開発された遊具もあります。



プロジェクト授業：LIVING ART in TOYAMA

毎年8月末に富山市の大山地区で開催されるアートイベントです。芸術文化学部がサポートスタッフとして参加します。



プロジェクト授業：高岡クラフト市場街

毎年秋頃に高岡市で開催されるクラフトに関する総合イベント「高岡クラフト市場街」に学生が参画し、イベントを盛り上げます。



クリエイティブ

芸術文化学部の学生有志と高岡伝統産業青年会の有志によって構成されるものづくり活動です。工芸都市高岡クラフトコンペティションへの出品を毎年継続し、数多くの入選・入賞を獲得しています。



芸文だからできる 『名物授業』



芸文では様々なユニークな授業が行われています。学内で繰り広げられる日々の授業の断片をピックアップ! 芸文の授業をどうぞご覧ください!

(授業名および授業内容はカリキュラム編成により変更となる場合があります)



【サインデザイン演習】
3月に開催される「山町筋のひなまつり」に向けて会場の案内や広報に利用するサインを学生がデザイン。



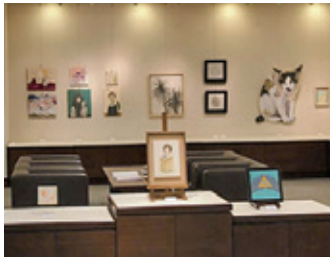
【デザイン基礎(クラフトデザイン)】
学生がデザイン・制作した木のおもちゃで遊べる展覧会を開催。楽しく遊ぶ姿がものづくりの糧となります。



【工芸実習(金工)B】
実習が行われる現場は“鋳物場(いものば)”と呼ばれ、土間の空間が広がっている独特な場所です。作品はキャンパス内で販売します。



【事業計画立案演習】
地域との連携の中で、より実践的に事業計画の在り方を学ぶ授業。写真の連携先は高岡市戸出にあるコワーキングスペース。



【課題研究I-II(大学院:絵画)】
大学院生、修了生、教員が学外でグループ展を開催。大学院修了後も継続的に作品が発表できるよう、サポートを行っています。



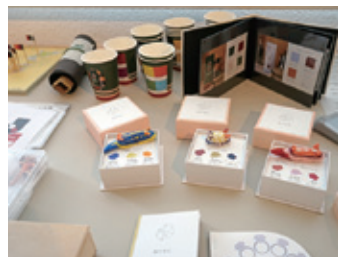
【芸文基礎演習B(静物デッサン)】
キャンパス内の広い空間に設置された規模の大きな静物モチーフをデッサンする課題があります。



【芸術文化キュレーション演習】
美学、芸術史、伝統文化論、文化政策、風景学、文化財科学等の研究や実践に必要な知見を、文献調査や現地調査を交えながら学びます。



【絵画技法・材料演習】
絵画について、その描画材と基底材について基礎的な知識と経験を得る授業です。



【色彩基礎演習】
色彩学の入門として、色が見える仕組み、表し方、配色手法について、色彩検定3級レベルの内容を学びます。



【国内旅行業務論】
旅行業そのものを規定する旅行業法を学び、必修資格である国内旅行業務取扱管理者資格の取得を想定します。



【空間デザインA(シェルター)】
水見スギとタイバック、金物のみを使用して1坪程度のシェルターづくりに取り組みます。



【芸文基礎演習C(造形課題)】
基礎的な立体感覚を養い、素材特性を理解し、造形能力を身につける授業。紙の裁断・折り・曲げによって「紙の照明」を制作する。



【博物館実習】

掛軸、工芸品、額装など各種美術作品の基本的な取り扱い方や、梱包の仕方、展示方法など、学芸員として基本の技術を実習します。



【卒業研究・制作】

卒展を前に行われる最終講評会に学部外部からゲスト講師を招聘。学外の目から観た率直な助言と批評を得ます。



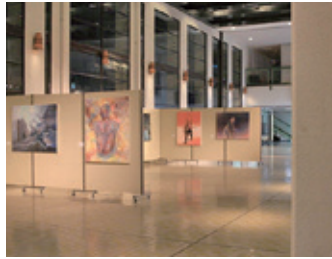
【プロダクトデザイン実習D】

木質資源（ペレット）の再利用に焦点をあて、企業との連携の中で燃焼器具を開発する授業。実際に炎を使ったプレゼンテーションを行う。



【リノベーション演習A】

水見の「旧渡辺邸 倉庫」の改修を行い、水見が舞台となる映画のロケ地として使用されました。



【絵画実習B】

制作課題は「人物」。大きさは50号(116.7×90.9cm)。吹き抜けのエントランスはいつも作品発表の場となっています。



【空間デザインB(インテリア)】

空間の重要な要素にもなる椅子について考え、デザインし、原寸大モデルの制作まで行います。



【芸文総合演習B】

課題の芸文TシャツはスタッフTシャツとして、芸文バッジは来場者プレゼントとして、芸文のオープンキャンパスにて使用されます。



【展示実習】

自ら作品を制作し、自ら展覧会を開く。作品を発表するとはどういうことか、実践を通して学ぶ機会。



【立体実習(金属)1】

溶接の仕組みを理解し、溶接技術を修得するとともに、鉄(板)を材料とした小作品を制作します。



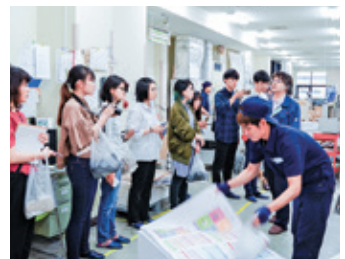
【デザイン基礎(ビジュアルデザイン演習)】

自分を紹介する自分チラシと自分ステーションナリーの制作を通してビジュアルデザインの基礎を習得する。



【まちづくり】

毎年高岡のまちづくりに対する具体的な行動を授業課題としている。写真は高岡駅で開催したフラッシュモブの様子。



【CGデザイン演習】

情報伝達のためのデザインと、CGテクニック、DTPによる印刷発注の方法を身につけることをねらいとした授業。写真は印刷会社の見学風景。



【芸文基礎演習C(構造課題)】

スチレンボードを用い、荷重に耐えられるタワーを制作する。限られた材料とユニット構造という制約の中で機能を実現する造形を探る。



【鑑賞のための造形演習】

芸術文化キュレーション必修科目。飛鳥時代などの金銅仏・木彫仏を参考に「安らぐ表情」を表現します。



【家具デザイン・制作B】

木材の特性と構造や木目と審美性の関係を設計に盛り込み、家具をデザイン・実制作します。

入試は『実技か小論文を選ぶ。』

芸術文化学部では、2つの「募集区分単位」での入学者選抜を行っています。右表の通り、特別選抜（学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜）、一般選抜（前期日程）、一般選抜（後期日程）、いずれの入試でも実技検査（鉛筆デッサン）と小論文のどちらか一方を選択する募集区分を設けて行います。入学した学生は2年次において、本人の志望や学業成績等に基づいてコースを決定します。このことにより学生は入学後の学修を通じて、多様な選択肢の中から進路を決めることができます。

2021年度入学者選抜より、芸術文化学部の 入試が変わります（配点、募集定員、入試の名称）

2020年度 文部科学省「大学の数理及びデータサイエンス教育の全国展開」協力校に選定。

2020年度から、富山大学はすべての学部学生に対して「数理・データサイエンス教育」を必修化しました。これにより、すべての富山大学生が文系・理系を問わず、それぞれの専門分野に応じた実践的な数理・データサイエンス能力を身につけるように人材育成を行います。卒業後は、その能力を利活用して社会で新たな価値を創造し活躍していくことが期待されます。

変わる大学教育。

このように大学での教育が変わっていく中、入学する学生に求められる能力も変わってきています。これまで以上に基礎学力、論理的思考力、問題発見・解決能力が必要とされることから、この度、入試内容の一部変更を行うこととしました。

試験科目の配点が変わります。

芸術文化学部の一般選抜「募集区分a」では、大学入学共通テスト（旧 大学入試センター試験）で基礎学力を、実技検査（鉛筆デッサン）で観察力や基礎描写力を評価します。試験科目に変更はありませんが、配点比率を50:50としました。急速に変化する社会の中で活躍できる人材を育成するために、バランスのある入学者を募集したいと考えております。

募集定員が変わります。

今回の変更に伴い、募集定員を整理しました。「募集区分a」と「募集区分b」の定員比率はこれまでと変わらず50:50のままとなっています。

入試の名称が変わります。

特別選抜（旧 特別入試）、学校推薦型選抜（旧 推薦入試）、帰国生徒選抜（旧 帰国生徒入試）、社会人選抜（旧 社会人入試）、一般選抜（旧 一般入試）、大学入学共通テスト（旧 大学入試センター試験）に、それぞれ名称が変わります。

コース配属について

2年次において本人の志望や学業成績等に基づいてコースを決定し、後学期にコース配属されます。各コース配属の目安は以下の通りです。

美術・工芸コース——— 30名
デザインコース——— 30名
建築デザインコース—— 30名
地域キュレーションコース— 20名



富山大学・入試情報



富山大学・入試情報
過去問題

下記、赤字が変更部分となります。

特別選抜（学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜）

美術・工芸，デザイン，建築デザイン，地域キュレーション (2年次において、本人の志望や学業成績等に基づいて所属コースを決定)		
区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	実技検査 (100点) (鉛筆デッサン) (3時間 (180分)) 面接 (100点)	小論文 (100点) 面接 (100点)
募集人員	20名	15名
	帰国生徒 若干名 / 社会人 若干名	

大学入学共通テストは課しません。

一般選抜（前期日程）

美術・工芸，デザイン，建築デザイン，地域キュレーション (2年次において、本人の志望や学業成績等に基づいて所属コースを決定)		
区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	大学入学共通テスト (500点) (3教科3科目又は3教科4科目) 実技検査 (500点) (鉛筆デッサン) (3時間 (180分))	大学入学共通テスト (800点) (5教科6科目又は5教科7科目) 小論文 (200点)
募集人員	25名	30名

私費外国人留学生選抜については、入学者選抜要項を確認ください。

一般選抜（後期日程）

美術・工芸，デザイン，建築デザイン，地域キュレーション (2年次において、本人の志望や学業成績等に基づいて所属コースを決定)		
区分	募集区分a	募集区分b
選抜方法	大学入学共通テスト (400点) (2教科2科目又は2教科3科目) 実技検査 (400点) (鉛筆デッサン) (3時間 (180分))	大学入学共通テスト (600点) (3教科3科目，3教科4科目又は2教科3科目) 小論文 (300点)
募集人員	10名	10名

上記は2021年度入学者選抜における情報です。〔 〕は配点。

入試の詳細は、7月下旬に発表される入学者選抜要項を確認ください。

どこまでもひろがる 「未来」のはなし

地方公務員

柏崎市役所 総合企画部元気発信情報発信係



地域に出て何かやってみるきっかけ

芸文では、地元が好き、地元で何か役に立つことがしたいと思い、地域活性化や文化政策について学びました。地域でどんな特色ある取り組みが行われているか、その地域の売り・魅力をどう展開していくか、いろいろな事例を学ぶことができました。【阿部祐香 / 文化マネジメントコース※OG】

商品企画

助野株式会社



芸術とデザインの両方から学びを得る

大学時代はデザイン工芸コースで鍛造を学び立体物の制作を行っていましたが、プロダクトデザインの授業も受講し芸術とデザインの両方から学びを得ていました。【中越卓月 / デザイン工芸コース※OG】

建築設計

A Nomad Sub 株式会社



経験が人との出会いにつながる

芸文では家具の制作からランドスケープも含めた建築の提案など、様々なスケールを横断しながら学べるため、設計に必要な能力は十分身に付くと思います。少人数授業での先生方からの細やかな指導には感謝しています。【乙川佳奈子 / 造形建築科学コース※OG 大学院芸術文化学術研究科修了】

場づくりプロデュース

グリーンノートレーベル株式会社



総合的なデザインの考え方が身につく

芸文では他コースの友達の作業風景やアイデアの考え方を間近で見れたことで、総合的なデザインの考え方が身についたと思います。友達のゼミ室へ遊びに行き作業している姿を眺めながらお喋りしていただけて、今思うとそうした瞬間に沢山の情報が詰まっていた。【西田芽以 / デザイン工芸コース※OG 大学院芸術文化学術研究科修了】

舞台技術スタッフ

公益財団法人富山県文化振興財団
(富山県高岡文化ホール)



様々な交流が社会に出た時の糧になる

私は舞台技術スタッフとしてホール催事での照明オペレート・音響オペレートの他、備品管理及び整備を主な業務とし、時にはホール主催事業で企画制作業務もを行っています。【野尻将樹 / 文化マネジメントコース※OB】

デザイナー

株式会社能作



出会いの一つ一つを大切に

在学中は地域と関わるイベントの企画・運営に参加したり、ものづくりサークルで高岡の職人さんと共に活動したりしました。様々な人と関わったり、経験を積むことで身についた考え方や技術が役立っています。【河原つかさ / デザイン情報コース※OG】

自分の可能性も



芸文って、
いろんな可能性が
見つかるところ！

社会との
関わりも



芸術や美術を学んだら、みんな画家やデザイナーになるわけじゃない。
芸文の先にどんな道があるのか？

「12人の先輩」に話しを聞いて、芸文の「未来」を知ることから始めよう。

(※コース名は入学当時のものです)

プロダクトデザイナー

株式会社ムーヴ



大学時代に触れたことがベース

芸文は、自分のコースだけではなく、他にデザインや美術の分野の授業も受けることができ、デザインのセンスを幅広く高めることができます。現在の仕事は色々なものを結び付け、デザインを行いますので、大学時代に触れた事がベースになってすぐ役に立っていると感じています。【李俊賢／造形建築科学コース※OB】

中学校教員

八幡市立男山第三中学校



芸術文化はなくてはならないもの

中学校の美術の先生になりたいという夢と、色んな表現方法を知って制作活動をしたいという思いから、私は「芸文」に入りました。制作活動だけでなく、様々な企画やボランティア活動などに関わり、自分が思っている以上の経験をすることが出来たと思っています。【尾崎梨紗／造形芸術コース※OG】

グラフィックデザイナー

株式会社 ROLE



興味関心の種を自主制作で育てる

芸文の授業課題や課外活動の中で「周りとは違うものを作りつつスベリたくない」と心がけ取り組んでいたことが、現在のクライアントに喜んでもらえる仕事にも繋がっている気がします。【久保田光明／デザイン情報コース※OB】

モデラー

本田技研工業株式会社 二輪事業本部
ものづくりセンター デザイン開発部



実践的な体験が出来る

「オートバイを作る」という今の仕事に就く上で、大学時代に工学部と連携してレースマシンを作った「学生フォーミュラプロジェクト」で得た知識と経験や、高岡の職人の皆様と一緒にクラフトコンペに出品する作品を作って学んだモノづくりのノウハウ等が大いに役立っています。【竹内秀太／デザイン工芸コース※OB】

個人事業主

氷見市地域おこし協力隊、tototo代表



知らない事をやり、新しく好きになる事もある

在学中は漆を学びながら魚の皮を加工してレザーにする実験を始め、タイに短期留学と様々な事に挑戦しました。そこで生まれた人との出会いから起業するという選択ができたと感じています。【野口朋寿／デザイン工芸コース※OB】

報道記者

北陸朝日放送株式会社



地域のために何か自分にできないか

大学時代、まちづくりや地域活性化について学びました。地方の現状や改善にどのような活動が行われているのか、それらを知れたことで、いま取材をする際のヒントやポイントを見つけることができています。【橋本星奈／文化マネジメントコース※OG】



中国語名

中国語名	ピンイン	キャラクター名
海螺小姐	Hǎiló xiǎojiě	サザエさん
2. 冰雪奇緣	Bīngxuě qíyuán	アナと雪の女王
3. 光之美少女	Guāng zhī měishǎo	プリキュア
4. 哆啦A夢	Duōlā A mèng	ドラえもん
5. 高达	Gāodá	ガンダム
6. 七龙珠	Qīlóngzhū	ドラゴ
7. 灌籃高手	Guānlán gāoshǒu	スラ
8. 冲啊! 面包超人	Chōng a! Miànbāo chāorén	そ
	Lǎbì Xiǎo-Xiǎn	
	Huòyǐng rénzhe	



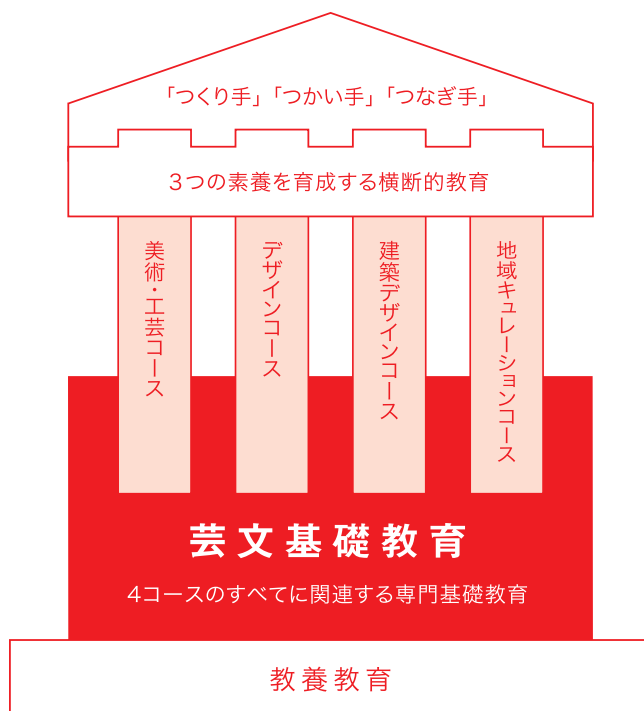
芸文基礎

考える力、試す力、伝える力の礎をつくる いしづえ

「芸文基礎」は全ての芸文生が学ぶ専門基礎科目群です。富山大学全学生を対象とした教養教育科目と共に、いずれ美術、工芸、デザイン、建築、キュレーションといった専門領域へと学びを深めていく、最初の専門的な学修段階となります。芸文基礎科目群は、考える力(理論・考察系)、試す力(技能・観察系)、伝える力(情報・言語系)を軸に構成され、造形表現、CG、測定や実験法、素材の理解、設計、芸術や伝統文化の歴史と科学的理解、世界の芸術文化、言語伝達、プレゼンテーション、情報処理、情報サービスなど、4コースの全てに関連する基礎的内容を学ぶことができます。

1	2	3	4	8
	5	6	7	

- 1.【考える力】寸法のワケを知る—生体計測と統計処理(芸文基礎演習Dの授業風景)
- 2.【考える力】アイデアのウリを知る—災害時の水運搬方法(芸文基礎演習Dの実験風景)
- 3.【試す力】立体表現を知る—観察をもとに想像する(芸文基礎演習Cの授業風景)
- 4.【試す力】デジタルデータの表現技能を知る—CG基礎演習の成果作品
- 5.【伝える力】異なる文化を知る—中国語の教材
- 6.【伝える力】視覚的情報伝達の法則を知る—プレゼンテーション演習の成果展
- 7.【考える力】色彩の仕組みと表し方を知る—色彩七ヶ短冊の制作(色彩基礎演習の成果作品)
- 8.【試す力】平面表現を知る—観察をもとに想像する(芸文基礎演習Bの授業風景)

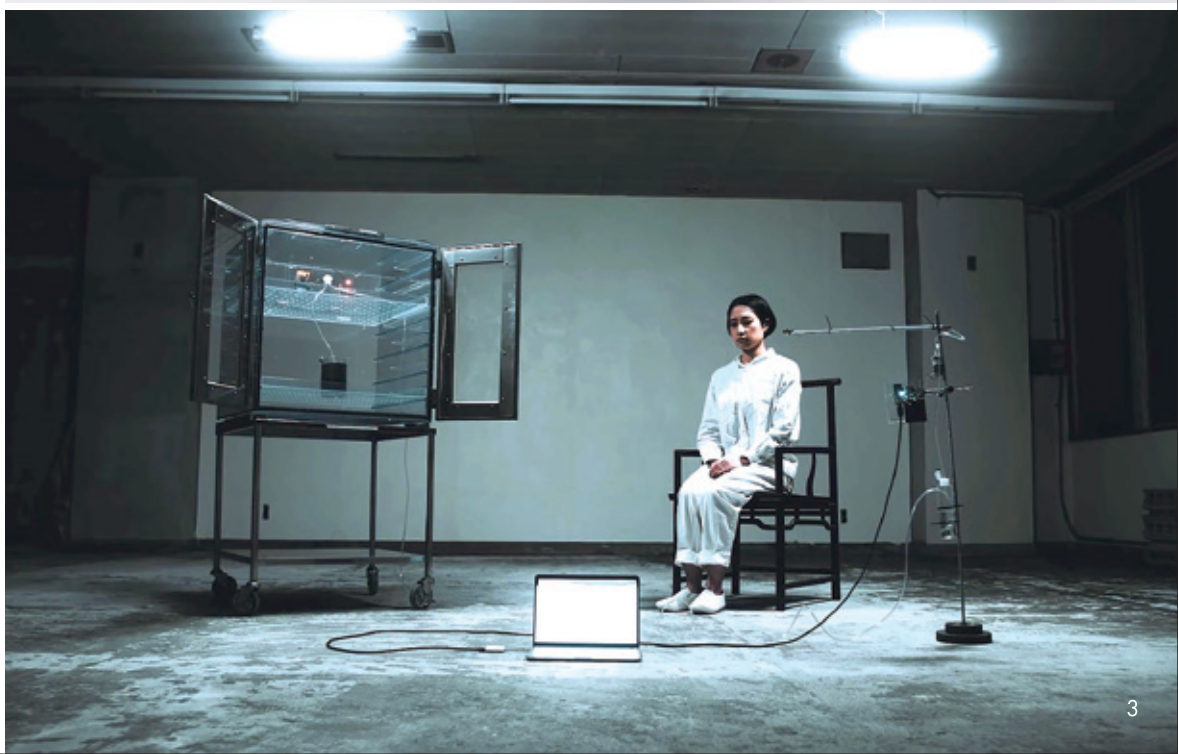




美術・工芸
コース



2



洗練された美意識と 卓越した技から創る 新しい芸術表現

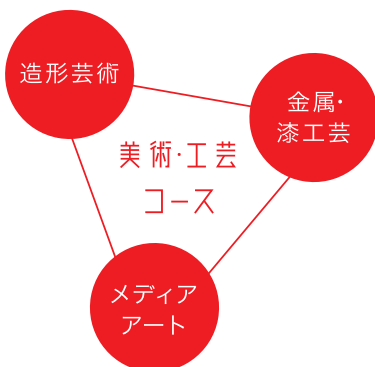
美術・工芸コースでは、絵画、彫刻、メディア芸術、金属工芸、漆工芸といった美術と工芸について、制作と発表を通して学べます。専門分野を選択して深く学びながら、その他の分野についても横断的に挑戦します。例えば、古典絵画技法とメディア芸術の両方を学ぶことで生まれる感覚、現代彫刻と工芸を同じ場で鑑賞する時に現れる価値といった、従来の枠組みを超えた専門性と多様性を見つけることができます。

それらを通して、これまでの伝統的な技法や美意識、これからの芸術表現やものづくりの在り方について考え、各自の資質や感性が発揮できる独創的な表現力を身につけます。

1. 「光の庭」(部分)小川佳純/絵画/卒業制作
2. 「蛾文蒔絵八角箱」高橋菜里/漆工芸/卒業制作
3. 「#watercrisis」芦田麻都佳/世界のどこかで#watercrisisとツイートされると過剰な水によって顔が保湿されるパフォーマンス装置/メディアアート/卒業制作
4. 「がらがら」(部分)向井梓/絵画/卒業制作
5. 「小さな森を愛する」長谷川桃子/彫刻/卒業制作
6. 「オノマトペのジュエリー」川喜菜々子/ジュエリー/卒業制作
7. 「あとのまつり」(部分)北沢穂乃佳/漆壁面/パネル/卒業制作
8. 「Cabbage」渡辺陽子/鍍金/卒業制作
9. 「思い描く -Trace-」若林有那/3Dデジタルファブリケーションを活用した立体造形/卒業制作

取得可能資格

中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)、学芸員資格



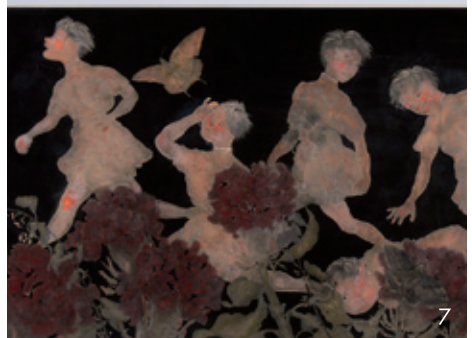
4



5



6



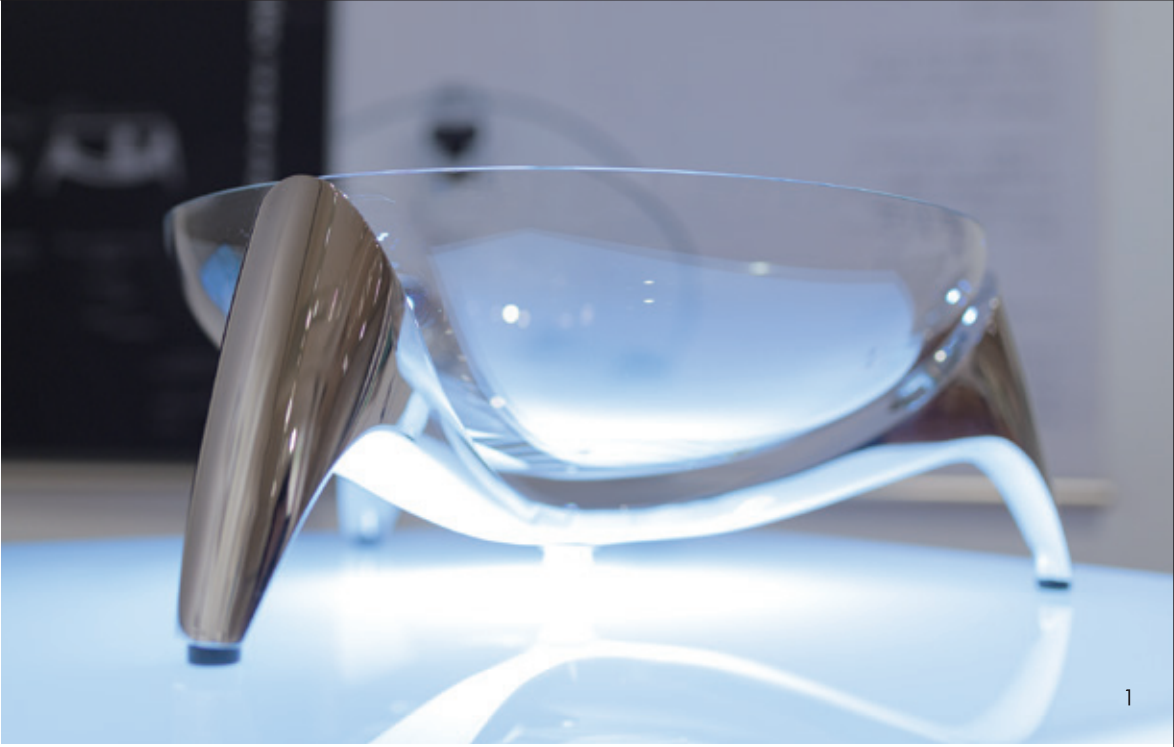
7



8



9



1



デザイン
コース

2



3

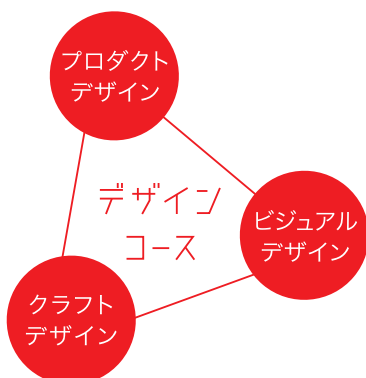
明快なコンセプトで 地域の課題を解決し、 新たな価値を提案

デザインコースでは、明快なコンセプトを創り出す力や実践的なデザインの力を養うために、地域の企業や行政機関と連携し現実社会の具体的な問題に取り組む多くのプロジェクト型授業を導入しています。物事の本質を探求し、人と「モノ」「コト」「空間」「情報」との関係を整え、時代のライフスタイルに適合したデザインを実現できる人材、地域の伝統的産業技術と先端技術とをバランスよく活用し新たな価値を提案できる人材を育てます。

1. 「水紋の器」且味咲希/水と光を利用した波とゆらぎを生み出す装置/プロダクトデザイン/卒業制作
2. 「百人一趣」寺本真志帆/歌の持つ雰囲気や情景を一首ずつビジュアル化した100枚のポスター/グラフィックデザイン/卒業制作
3. 「空中楼閣」塩谷夏海/物語を感じさせるキャビネット/家具デザイン/卒業制作
4. 「VISION AGRILIFE」前田隆将/農業の新しい価値を生み出すモビリティ/プロダクトデザイン/卒業制作
5. 「won'der」高橋由莉/犬の歩きを機構で表現/立体造形/卒業制作
6. 地域連携授業の実施風景/県内企業と連携し実践的なデザイン実習を行う
7. 「水見市海浜植物園リニューアルにおけるサービスデザインの提案」小木曾文香/施設に新設される芝生広場で使用するレジャーシート/サービスデザイン/卒業制作
8. 「Waxing table for alpen ski」高橋匠/二面性(ワックステーブルと飾り棚)のある家具/家具デザイン/卒業制作
9. 地域連携授業の実施風景/原寸モデルを制作し具体的な提案を行う

取得可能資格

中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)、学芸員資格



4



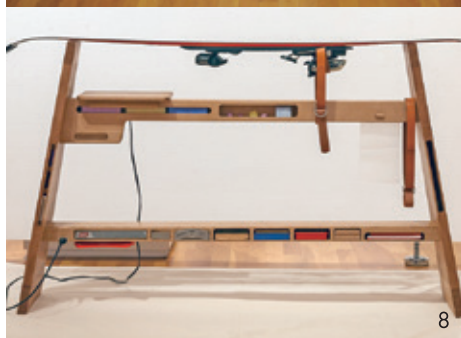
5



6



7



8



9



1



建築デザイン
コース

2



3

歴史・風土から

織りなす

時と場所の創造

建築デザインコースでは、一般的な建築学科で教えられる、建築設計、インテリアデザイン、建築論・建築史、都市・景観論、建築構造、環境・設備、材料工学などの幅広い分野を網羅すると共に、地域の歴史・文化を継承しながら「伝統と革新」という枠組みの下、芸術と工学、実践と理論の統合プロセスを通して建築を学びます。自分のデザインを実寸大で制作し、自ら実測調査した町屋の再生を詳細に提案するなど、存分に時間をかけ構造・構法と意匠に立脚した空間表現の技法を習得することで、インテリアデザインから都市・環境デザインに至る広範な分野における、発想力・設計力やプレゼンテーション能力を発揮できる人材を育成します。

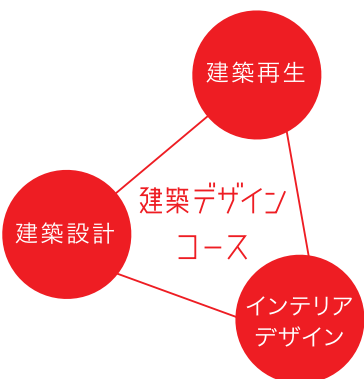
1. 「卒業研究・制作」4年間の集大成、各自がテーマを設定し、指導教員のもとで卒業研究・制作としてまとめます
2. 「芸文総合演習C(シェルター)」根源的な空間をデザインし、チームに分かれて 実際につくりあげる授業、手と身体で建築を学びます
3. 「卒業・修了研究制作展GEIBUN11」展示風景
4. 「街中の終後三景」(部分)酒井香奈/卒業制作
5. 「廃村プロセスのデザイン」(部分)酒井美羽/卒業制作
6. 「芸文総合演習C(シェルター)」都市デザイン学部から一級・二級建築士教育を任せられ、両学部の学生が受講しています
7. 「空間デザインF(建築再生)」実際の伝統的な建築や町家をリノベーション設計する授業、実測から、地元住民の方々へのプレゼンテーションも行います
8. 「空間デザインB(インテリア)」名作椅子を実測し、図面・模型をつくり、それを生かして椅子をデザインし、原寸大で製作
9. 「空間デザインC(住宅)」町家の軸組模型を制作し木造を学び、各自自由なデザインで住宅の設計プロジェクトに取り組みます

取得可能資格

1級建築士受験資格、2級建築士受験資格、木造建築士受験資格、中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)、学芸員資格

関連分野の資格

情報処理技術者、施工管理技士、宅地建物取引士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、マンション管理士、知的財産管理技能検定、カラーコーディネーター、福祉環境コーディネーター、マンションリフォームコーディネーター



4



5



6



7



8



9



地域キュレーション コース

「つなぐ」ことで、新たな価値を創造する。それが、「キュレーション」

キュレーションとは、多様な事象の中から価値を持った情報やものを見つけ出し、体系的な知識にもとづいて、整理し、編集し、提示する技術です。独創的な視点で、人、もの、地域を相互につなぎ、新たな価値を地域社会に創り出すことができます。地域活性化が重要な課題となっている現代社会において、キュレーションには社会の期待が集まっています。

地域社会は、「キュレーター」の活躍を求めている

キュレーションという言葉は、博物館や美術館の専門職であるキュレーター（学芸員）に由来しています。しかし現在では、学芸員に限らず、教育、情報、経営などあらゆる場面で用いられる考え方へと広がっています。美術や文化財の歴史や理論、展示技法、文化政策、地域の景観や伝統を活かしたデザインなどの専門分野を学ぶことを通してキュレーションの力を培い、まちを、地域を、社会を、アートや伝統文化によって魅力ある世界に変えていくことのできる人材を育てます。

豊かな地域づくりに貢献したいあなたを待っています

地域キュレーションコースでは、制作することよりも見ることや背景を知ること、あるいは、まちづくりや地域おこしに関心がある人に、ぜひ来て欲しいと考えています。卒業生は専門性を活かして、地方自治体、マスコミ、伝統産業や観光に関わる企業、ギャラリーなどで活躍しています。また、さらに学びたい人は大学院に進学することができます。



アートや 伝統文化を活かした 豊かさを感じる地域づくり



4

「デミアン・ハースト〈Natural History〉シリーズについての考察」 伊藤美晴

英国を代表する現代美術家デミアン・ハーストの〈Natural History〉シリーズは、鮫や牛などの標本をホルムアルデヒドで満たした箱の中に保存する連作である。本論では、ミニマル・アートやジェフ・クーンズらの現代美術作品との比較に加え、自然史博物館や博物学の影響をも考察対象として、同連作が、ハースト独自の自然体系の創出活動であることを明らかにした。ハーストは、「生と死」という不可避の現象を出発点としつつ、多くの矛盾をはらむ現実を新たな「世界」に再構築することを試みているのである。



「瑞龍寺における狩野派の絵画作品について」 大野比奈

富山県高岡市に位置する瑞龍寺は、加賀藩三代藩主前田利常が二代藩主利長の菩提を弔うために建立した禅宗寺院で、その宝物には江戸時代に幕府御用絵師であった狩野派の奥絵師の作品がある。その画題の多くは、利常が利長の菩提を弔う内容のもので、利常の命日を偲び、祖霊となった先祖を祝う意思が感じられる。利常は後水尾天皇や、天皇が開いていた寛永文化サロンを通して当時の芸術家たちと関わる中で、京の伝統文化と江戸の文化、さらには流行の狩野派という、当代の一流の文化のすべてを取り込む形となった。



鴛鴦図(部分)
狩野安信
瑞龍寺蔵

「新湊曳山の山町東町の囃子方の歴史と継承 — 囃子方の後継者不足問題と育成 —」 菅沼拓哉

県内最多の13基の曳山を所持する新湊曳山まつりは、それぞれの曳山に特徴があることと同様に曳山囃子にも町ごとに特徴を持つ。しかし、少子高齢化などの影響により、現在は後継者の不足という問題を抱えている。しかし、山町の1つである東町では、過去に囃子方がなくなった経験を踏まえ、指導方法などを工夫し、町全体で後継者の育成に努めている。また、町の若い囃子方は小学校のお囃子クラブで曳山囃子を習い、早くから囃子方の戦力として活躍している。祭の伝統を守るため、町や学校が協力し、地域を挙げての後継者育成が必要ではないだろうか。



「町並みの構成要素に見る八尾旧町住民の景観に対する意識」 矢郷沙織

富山市八尾旧町は、祭礼や芸能とともに江戸期からの美しい町並みを継承してきた町である。八尾旧町住民の景観に対する日常的な意識を探るために、町並みの通りに面してディスプレイされている鉢植えや植栽、各種装飾物などに着目し、これらの要素を「町並みアクセサリ」と名づけ、その使われ方や建築用途、様式との関係性を分析した。修景行為と組み合わせて町並みアクセサリによる適度な修飾が施された町並み景観からは、文化を守る意識と、訪れる人をもてなす感覚を読みとることができる。



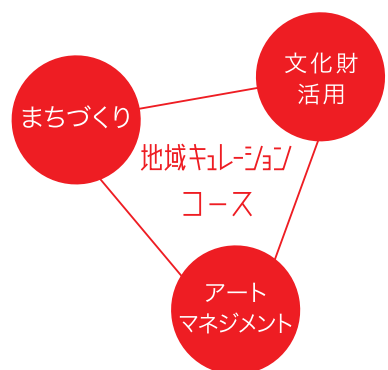
1. 獅子舞行事の現地視察は伝統文化の多様性を知る機会
2. ゼミで地域の風景資源を活用するための提案について考える
3. 美術作品の正しい扱いはキュレーションの第一歩
4. 菅笠PR用のモデル撮影風景

取得可能資格

学芸員資格

推奨資格

中学校教諭1種免許状(美術)、高等学校教諭1種免許状(美術)



本大学院では、学部4年間で培った知識、感性、技術を更なる夢の実現に向けて、より深化させ研究したいと望む学生や、社会に出た後に、もう一度深く専門分野を学びたいと望む社会人のために、芸術文化における各分野の専門家である教授陣が多彩なカリキュラムで万全の研究サポートを行います。日本の芸術文化を、地域はもとより全国、世界に広め発展させることで、自らの夢を実現させましょう。

設置目的

本研究科は、総合芸術を基盤とした人間の文化活動全般を教育研究の対象とします。独自の表現法とその成果の社会的活用という観点から、多角的な研究手法による実践的研究を行います。これからの社会において、学芸の深化を実現させる教育研究を通じ、芸術の成果を活用して心豊かな地域文化を創生するために、先導的役割を担う人材を養成することによって社会の創造性を強化することを設置目的とします。

教育目標

本研究科の教育目標は、日本の伝統文化を起点としたものづくりや、国際的視野に立った普遍的な視点に基づく専門知識・技術の深化を通して、文化芸術の発展・継承ために実践的な活動ができる人材を育てることです。

養成する人材像

学部では、幅広い教養と芸術文化を中核とした基礎的能力を修得します。

学部で培った基礎の上に、本研究科では、学芸の深化を実現することによって、想像性豊かな高度専門職業人を養成します。具体的には、これからの世界をリードできる、次に挙げる3つの人間像です。

- (1) 新時代の芸術文化を担うアーティスト
- (2) クリエイティブな産業のコーディネーター
- (3) 新たな地域文化のリーダー

もっと!!

芸術WEB「大学院」



大学院

芸術文化学研究科（修士課程）

1. 大学院の学生と教員が共同で設計した「木津の庄コミュニケーションセンター+公園」
2. 「乾漆朱塗飾箱「苺菓」」小池杏奈/漆芸芸/修了制作
3. 「いのちのいりぐち、こころのでぐち」(部分) 稲場美里/絵画/修了制作
4. 「乾漆箱「守」」李雨沢/漆芸芸/修了制作



大学院教育課程の概要

本研究科では、芸術文化学における多様な造形表現、芸術の普遍的価値などの基本的視野を持つための共通科目を、また、伝統文化を起点とした創造性を深化させるための「造形表現」「工芸」「建築・デザイン」「芸術文化論」の科目群を開設し、学生の目標に応じて、科目群を横断して構成した履修計画により教育を進めます。学部教育の学問体系は継承し連続性を保ちつつも、科目群を横断する教育研究体制を可能として、高度専門職業人の養成を担います。科目群は、次のような特徴を持っています。

●造形表現 科目群

平面、立体造形及びメディアアート制作などの多様な芸術的表現に関する科目で構成

●工芸 科目群

工芸のもつ、素材、用途、美的感性、造形感覚、加工技術、様式、独自性などのバランスを深く学び、自らのアイデンティティを核として世界に通用する価値の創出に関する科目で構成

●建築・デザイン 科目群

多様なデザイン表現力、生活環境としてのデザイン・建築・まちづくりの総合的な企画調整力、伝統文化の再生や地域創生、クリエイティブな産業に関する科目で構成

●芸術文化論 科目群

世界、日本、地域、人間というように芸術を身近な場へと視点を移動させることによる普遍的価値観、伝統文化を起点とした地域の芸術文化理論に関する科目で構成

これらの科目群は、学部との接続を容易に理解するための専門科目の括りであり、履修上の指針とするものであって、コース制のように修了までの学生の所属として設けてはいません。学生は自らの課題研究テーマや目標に応じて指導教員との相談によって主体的に履修科目を選択することにより、特定の科目群を中心に深めることも、複数の科目群を横断的に履修することも可能としています。

本研究科の学生は、基幹となる共通科目を選択必修として履修することで、普遍的、歴史的、地域的な固有の視点を持ちつつ、専門科目の中から自らの修学目標に合致した授業科目を中心に履修することにより、軸足となる専門技術、専門知識を深化させます。この結果、本研究科の「養成する人材像」が育まれるカリキュラム体系としています。

芸術文化学研究科選抜方法

芸術文化学研究科 芸術文化学専攻			
一般入試	筆記試験	口述試験	英語外部試験
	小論文	志願理由書及び研究計画書に基づき志願者の修学条件、研究意欲、研究能力等を判定します。	TOEFL又はTOEIC※
外国人留学生 特別入試	筆記試験	口述試験	
	小論文 (日本語で課す。)	志願理由書、研究計画書及び論文又はポートフォリオに基づき志願者の修学条件、研究意欲、研究能力等を判定します。	

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、英語外部試験(一般入試のみ)及び学業成績証明書を総合して行います。

※2019年度入試から、外部試験(TOEFL又はTOEIC)のみで評価する方式へ変更しました。

●英語外部試験の情報及び入試過去問題(小論文)については、芸術文化学部Webサイトで提供していますので、ご利用ください。

芸術文化学部Webサイト「大学院芸術文化学研究科入試情報」→ <http://www.tad.u-toyama.ac.jp/examin/index.html#gExam>

芸術文化学研究科募集人員

専攻	入試区分	実施時期	募集人員
芸術文化学専攻	一般入試【前期日程】	8月頃	4人
	一般入試【後期日程】	2月頃	4人
	外国人留学生特別入試	2月頃	若干人
	合計		8人※

※募集人員8人には外国人留学生特別入試の募集人員を含みます。

●詳細については「大学院学生募集要項」を参照してください。

●入学選抜試験に関する情報、資料請求方法については、富山大学Webサイトで提供していますので、ご利用ください。

富山大学Webサイト「入試情報」→ <http://www.u-toyama.ac.jp/admission/index.html>

■入試に関する問い合わせ先:

芸術文化学研究科について 芸術文化学部総務課学務チーム TEL.0766-25-9133

(「入試に関する問い合わせ」は、原則として志願者本人が行ってください。)



LAB応用科学大学 フィンランド共和国

ラハティ応用科学大学は、前身であるラハティ・ポリテクニック（職能大学）時代から実学に重きを置いた教育を展開しています。デザイン学部においても、企業との産学協同プロジェクトをはじめ、実践力を身につける教育プログラムが組まれています。

(旧:ラハティ応用科学大学、2020年から統合により大学名称変更)



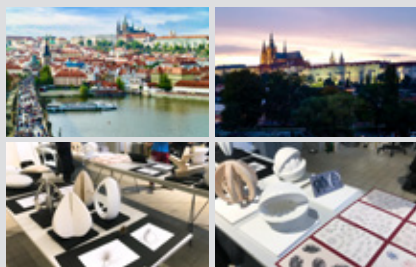
国際交流・留学

芸文が つながる世界へ行こう！



プラハ美術工芸大学 チェコ共和国

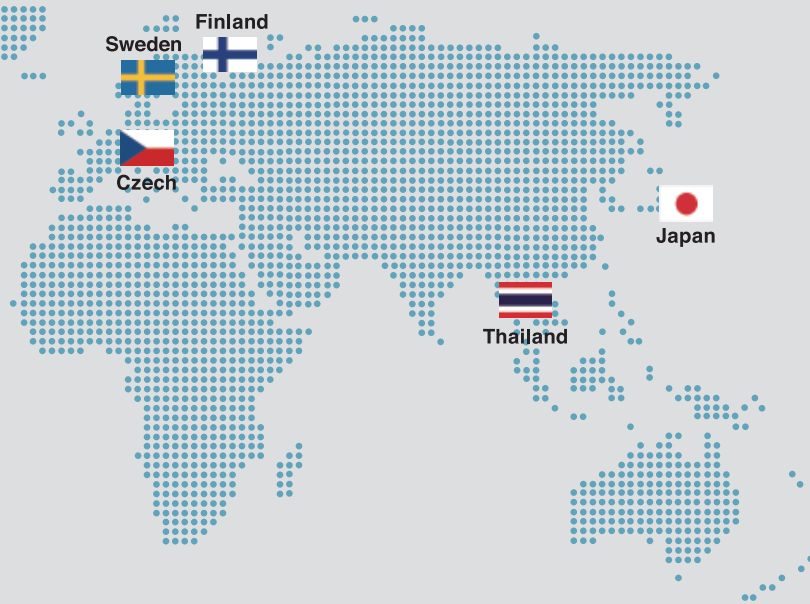
プラハ美術工芸大学は、1885年に創立、チェコ共和国内の芸術系国立大学の中で最も歴史のある大学であり、建築・デザイン・芸術・応用芸術・グラフィック・美術史美学などの学部を擁しています。ガラス芸術をはじめとする東ヨーロッパの優れた芸術を学ぶことができます。





カペラゴードン美術工芸学校 スウェーデン王国

カペラゴードン美術工芸学校は、木工・織・染色・陶芸・園芸の4コースがあり、優れた作り手と豊かな使い手の育成を目指しています。美しい工房と宿舎での生活が、豊かな暮らしを作ることを意味を問いかける学校です。



もっと!!
.....
芸文WEB「留学生の今日」

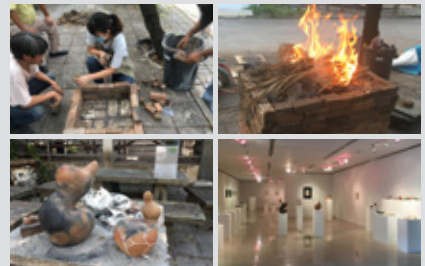


留学中の学生が
現地からレポート中!



パタナシン芸術大学 タイ王国

タイ国立パタナシン芸術大学は美術、工芸、デザイン、建築、舞踊、音楽といった幅広い教育を行っています。タイの伝統的な絵画、漆工芸、建築はもとより、現代的な感性が融合することで、アートやデザインのダイナミックな流れを肌で感じ学ぶことができます。



CAMPUS LIFE

地域の中で育まれる
芸文生達。





もっと!!

芸文WEB
「キャンパスライフ」





教員紹介

バラエティーに富んだ教授陣。

有田 行男 准教授

デザインマネジメント、コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン

伊東 多佳子 准教授

美学、芸術哲学、環境美学、環境芸術論

今淵 純子 講師

工芸（鍍金、彫金、ジュエリー）、美術教育

上原 雄史 教授

建築意匠、建築設計、アーバニズム

内田 和美 教授

プロダクトデザイン、トランスポートデザイン

大氏 正嗣 教授

構造デザイン、教理的配置計画
木材の積層架構等

岡本 知久 講師

広告コミュニケーションデザイン、
ブランディングデザイン、タイポグラフィデザイン、
タイプ（フォント）デザイン、エディトリアルデザイン

小川 太郎 講師

漆芸

沖 和宏 准教授

視覚伝達デザイン

奥 敬一 准教授

風景学、風景観光論、世界遺産学

小田 夕香理 講師

英文学

河原 雅典 教授

人間工学、働態学

齊藤 晴之 教授

工芸美術、漆造形、立体表現

佐藤 弘隆 助教

メディアアート、デジタルアート

三宮 千佳 准教授

東洋美術史、日本美術史（古代～中世）
博物館学

島添 貴美子 准教授

民族音楽学、民俗芸能研究、伝統文化論

清水 克朗 准教授

美術鑄造

須田 久美子 講師

19世紀イギリス文学、英語教育関連分野

高橋 誠一 教授

漆工芸、漆造形、生活工芸

田邊 元 講師

スポーツ人類学、民俗学、武術研究、民俗芸能研究



もっと!!
 芸文WEB「受験生へのメッセージ」



辻合 秀一 准教授
 デジタルテクノロジー
 Computer Graphics
 画像処理、ヒューマンインタフェース
 複合現実感

内藤 裕孝 講師
 家具デザイン、プロダクトデザイン

長柄 毅一 学部長・教授
 金属材料学、金属材料加工学、文化財科学

長岡 大樹 助教
 建築論、芸術論

長田 堅二郎 講師
 現代造形芸術、現代美術、立体造形

西島 治樹 准教授
 美術（メディアアート）

萩野 紀一郎 准教授
 建築設計・保存・再生、インテリアデザイン

林 暁 教授
 美学（漆工芸）
 【富山大学卓越教授】

平田 昌輝 講師
 彫刻、塑造

藤田 徹也 准教授
 情報処理

松田 愛 講師
 西洋美術史、近現代美術論
 アート・マネジメント

松政 貞治 教授
 建築論、建築歴史意匠設計学、都市形成史
 景観論、フランス近現代建築デザイン論

松村 浩之 講師
 油画

三船 温尚 教授
 鑄造技術史、
 作品の造形と制作技術

村田 聡 教授
 石油化学、触媒化学

安嶋 是晴 准教授
 文化政策論、伝統産業論、地域経営論

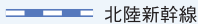
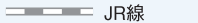

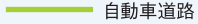

藪谷 祐介 講師
 コミュニティデザイン、建築計画

山田 眞一 教授
 中国語学、中国語教育

横山 天心 准教授
 建築意匠

渡邊 雅志 准教授
 プロダクトデザイン、木材造形

AREA MAP

-  北陸新幹線
-  JR線
-  鉄道
-  自動車道路
-  国道





雨晴海岸から見た立山連峰



国宝 瑞龍寺



高岡市美術館



千本格子の家屋が銅片の敷き込まれた石畳に連なる高岡市金屋町



御印祭の街流し



写真提供:高岡市
日本三大七夕の一つ「高岡七夕まつり」



写真提供:高岡市
ユネスコ無形文化遺産「高岡御車山祭」



写真提供:高岡市
高岡市内を走る万葉線「アイトラム」



世界遺産「五箇山 合掌造り集落」



富山県水墨美術館



富山県美術館



北陸新幹線で新高岡駅から東京駅まで約2時間30分



写真提供:金沢市
金沢21世紀美術館



写真提供:金沢市
兼六園



GEIBUN

国立大学法人 富山大学

芸術文化学部 / 大学院 芸術文化科学研究科

〒933-8588 富山県高岡市二上町180番地

TEL 0766-25-9111

FAX 0766-25-9104

E-mail info@tad.u-toyama.ac.jp

<http://www.tad.u-toyama.ac.jp/>



f GEIBUN

@geibun_kouhou

ACCESS

東京から 羽田空港から 富山空港まで(約1時間)
JR東京駅から JR新高岡駅まで(約2時間30分)

大阪から JR大阪駅から JR新高岡駅まで(約3時間)
車で名神高速道路-米原JCT-北陸自動車道-小矢部JCT-能越自動車道-高岡北IC

名古屋から JR名古屋駅から JR新高岡駅まで(約3時間30分)
車で東海北陸自動車道-小矢部JCT-能越自動車道-高岡北IC

北海道から 新千歳空港から 富山空港まで(約1時間30分)

福岡から JR博多駅から JR新高岡駅まで(約5時間30分)

TOYAMA
富山県

